

グループワーク「モニタリングについて」 まとめ

各グループ(A～D)に分かれ、実際のモニタリング報告書を見せ合いながら課題や工夫を共有した。

グループ	主な課題・疑問点	実践している工夫・気づき
A グループ	・事業所ごとの文章表現(文化)の違い。 ・自宅訪問を拒否された場合の対応。 ・医療系(訪問看護等)との情報共有における、報告書の不十分さ。	・児童のネガティブな表現(衛生面など)は、親が不快にならないよう「清潔面を気遣う」「家事育児の苦勞ねぎらい」等の表現に配慮。 ・LINE 導入により日常的に状況を把握。 ・訪問拒否時は「本人・家族の希望で場所を設定した」旨を記録に残す。 ・医療連携には国が示す医療系報告書をプラス。
B グループ	・訪問や面談の日程調整だけで 1 日何件も費やす。 ・件数過多と人材不足により、モニタリング時間の確保が困難。 ・聞き取りにかかる時間は 15 分から 1 時間と利用者によってばらつきがある。 ・根本的な問題として人手不足が挙げられる。	・トラブルや困難を抱えているケースを優先的に訪問するなどの優先順位づけ。
C グループ	・モニタリング期間の管理や受給者証の変更漏れリスク。	・変更点を「赤字」にして保護者へ分かりやすく印刷。 ・電話だけでなく、本人の特性に合わせメールや LINE を活用。 ・管理ミス防止のため事務員とダブルチェック。
D グループ	・複数事業所を利用している場合、報告書への記載を「事業所ごと」に分けるべきか「まとめる」べきか(表現の難しさ)。 ・全事業所を訪問するマンパワーが足りない。	・「記録」ではなく「見る人(行政や他職種)の視点」に立った報告書作成の重要性に気づいた。 ・障害分野は訪問頻度が低いため、変化を見逃さない意識が大切。 ・意思表示が難しい方の満足度は、行動や事業所での様子から推察して記載。